

鴨猪水力発電所 環境教育・観光資源化事業

1. 補助事業の目的

地元からの要望に基づき、鴨猪水力発電所の概要説明看板の設置や発電設備の現物展示等を行い、農業体験と併せた環境教育の場としての施設の整備を行うことにより、地域の活性化に貢献することを目的とする。

2. 補助事業の概要

(1) 事業者名

九電みらいエナジー株式会社

(2) 事業期間

平成 29 年 11 月 17 日 ～ 平成 30 年 2 月 28 日

(3) 対象地域

熊本県上益城郡山都町菅

(4) 対象地域の状況

山都町は南阿蘇外輪山から九州脊梁山地までを圏域とした九州のほぼ中央に位置する熊本県屈指の面積 544.67km² を有する町である。

このような自然環境が育む矢部茶や高冷地野菜、ブルーベリーなどの果樹、畜産等の数多くの特産品を有する農林業が基幹産業となっており、国の重要文化財に指定されている「通潤橋」や、農村文化の象徴である「神楽」など伝統ある農山村文化を形成している。また、発電所を建設中である鴨猪川は、一級河川緑川の上流域に位置する支流である。緑川は、その源を熊本県上益城（かみましき）郡山都（やまと）町の三方（さんぼう）山（標高 1,578m）に発し、御船（みふね）川等の支川を合わせて熊本平野を貫流し、下流域において加勢（かせ）川他を合わせ有明海に注ぐ、幹川流路延長 76km、流域面積 1,100km² の一級河川である。緑川の水は、古くから農業用水として盛んに利用されてきており、発電用水としては、緑川ダム（国土交通省）や甲佐発電所（九州電力）等の 12 発電所で利用されている。

(5) 対象発電所

水系・河川名	緑川水系・鴨猪川
発電所名	鴨猪水力発電所
事業者	九電みらいエナジー株式会社
出力	1,990kW

3. これまでの取り組み状況と課題

鴨猪水力発電所は、平成 25 年以降、九電グループが開発に向け設計検討や地元対応を進め、平成 28 年 6 月に着工した地点である。

地元とは鴨猪水力発電所建設協議会を立ち上げ、これまで様々な協議（12 回実施）を進めてきたが、地元は昔からの課題として地域の活性化のために人を呼び込みたいと考えており、発電所が建設されたら農業体験等と併せて水力発電を環境教育に取り込みたいとの意向があり、早期の運転開始が望まれている。

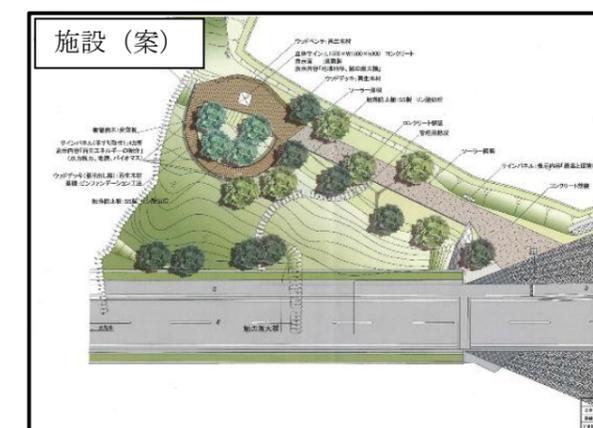
また、鴨猪水力発電所を、山都町中心部にある通潤橋※¹や地元（菅地区）にある鮎の瀬大橋※²や鮎の瀬カフェなどとあわせて、新たな観光資源の目玉としての活用も考えている。

※1：重要文化財（国） ※2：土木学会デザイン賞最優秀賞

4. 実施概要

設計検討として以下の内容について実施した。

- ・環境教育事業に関する地元ニーズの調査および事例調査
- ・鴨猪水力発電所・再生可能エネルギーPR看板の企画および内容検討
- ・設備の仕様検討
- ・設備の配置検討
- ・施設の景観設計



5. 得られた効果

- ・地元ほかのニーズ調査を踏まえた再生可能エネルギー看板等の検討及び設備の仕様、施設の景観設計など設置に向けた検討を進めることができた。
- ・今後、地元、県、町等への具体的な内容説明と並行して法令手続きなどを進めていくこととしており、施設等設置に関し理解、許可は得られる見込みである。
- ・今後地元が企画している農業体験と併せ、当社からの水力発電所の理解促進に向けた出前講座等により環境教育及び地域の活性化に貢献していく。（達成度 100%）